令和元年度第１回秋田市小・中学校適正配置推進委員会 会議要旨

日　時：令和元年１０月２日（水）
　　午後４時～午後５時１０分
会　場：イヤタカ
　　ハーモニーホール

１　開　　会

２　教育次長あいさつ

３　教育委員会事務局職員紹介

４　委員長選出

５　委員長あいさつ

６　議　　事

(1) 第１回地域ブロック協議会の開催状況等について

〔委員からの意見等〕

〇委員長　　中央、西部、北部は事務局から学校統合案のたたき台を示してほしい、他の地域は所属団体の意見を聞いてからということであったようだが、対応が分かれたのは、地域の特徴の違いによるものなのか。

〇事務局　　たたき台を示してほしいという地域は、たたき台がないとなかなか協議が進まないという協議会からの要望であった。東部地域では、一人の委員からたたき台を示してほしいという声があったが、他の委員からまだ早いという意見もあった。他の地域は、学校数にそれほど大きな変化がないため、そこまでの話にならなかったというのが実情である。なお、雄和地域はすでに望ましい学校数となっているので、次の協議会は要請があれば開催することとなった。

〇委　員　　小規模校でも十分にやっていけるのではないかという意見があったようだが、どのくらい重きを置いたものだったのか。

〇事務局　　特に小規模校がある地域では、小規模校の良さを主張していたが、教育委員会としては、学校に一定規模の集団が必要であることを丁寧に説明したところである。地域代表の方は思いが強かったように感じた。

〇委員長　　小規模校の良さを主張したのは、地域代表なのか、保護者代表なのか。また、協議会の会長はどのような人なのか。

〇事務局　　地域によって、地域代表の声が大きいところと、保護者代表が積極的に発言したところがあり、地域性の違いが出た。小規模校

を残してほしいという意見が地域代表から出たところと、保護者代表から出たところと、両方のケースがあった。委員同士で協議を進めていただきたいと考えている。

なお、協議会の会長は、各市民サービスセンターにある地域づくり組織の代表者に就任していただいているので、地域の方や実情をよく理解している人物である。

〇委　員　　協議会の出席状況はどうだったのか。

〇事務局　　委員の都合がつかない場合は代理出席をお願いしていたため、中央、西部、東部で各１名の欠席があっただけで、ほぼ出席していただいた。

〇委　員　　傍聴者はどのような方か。

〇事務局　　受付で人数のみ把握していたので詳しくはわからないが、保護者、町内会の関係者などであると思われた。

なお、傍聴の人数には入れていないが、各学校の校長にもオブザーバーとして参加していただいている。

〇委　員　　協議会だよりはどのように配布したのか。また、配布後の反応はどうだったのか。

〇事務局　　町内会長には、それぞれの班の数を郵送し、町内会で回覧していただいたほか、学校を通して児童生徒の家庭にも配布し、ホームページ以外でも、市民に目にしていただけるような工夫をした。

反応としてはあまりなかったが、ある町内会長から、特定の学校がどうなるのかという問い合わせがあった。

(2) 第２回地域ブロック協議会の内容等について

〔委員からの意見等〕

〇委　員　　統合することによる財政面はどうなのか。どの校舎を使うかは校舎の耐久年数で決まるのか、新設もあり得るのか。

また、統合案はどのタイミングで外部に公表されるのか。

〇事務局　　統合に伴い、校舎の増築やスクールバスの運行など、子どもたちにとって必要な措置は講じていくこととしている。

統合案については、例えば中央地域は10月10日に開催するので、統合案はそのタイミングで公表されることとなる。順に西部、北部と公表される。

〇委　員　　東部はイメージが湧きやすいが、北部についてはどちらの校舎を使うなど、答えはあるのか。

〇事務局　　協議会は３段階で考えていくものであり、第１段階ではまずは組み合わせを協議していただく。どちらの校舎を使うかは、第２段階以降で話し合うこととなる。

〇委員長　　校舎の新設はあり得ないのか。

〇事務局　　基本方針では、原則、既存の校舎を使うこととしているが、協議の進み具合によって決まるだろう。

〇委員長　　新設は用地が確保されることが条件だろう。既存の校舎を使う

場合、必ずしも新しい校舎を使うとは限らないのか。

○事務局　必ずしも新しい校舎を使うとは限らない。利便性なども考慮し、総合的に判断することになると思う。

○委　員　校舎の場所が決まらないと組み合わせが決まらないように感じる。何年経過すると老朽化したと考えているのか。

○事務局　学校施設は45～60年で改修しているが、長寿命化計画では改修を定期的に行うことで、おおよそ60～80年持たせるような改修を目標としている。

○委　員　昭和何年築の学校が該当するのか。

○事務局　昭和50年代に建てられた学校が多く、ほとんどの学校が40～50年経過している。

○事務局　一番古いのが旭南小学校で、52年経過している。次に、土崎小学校で51年経過している。

○委　員　校舎によって子どもたちの学習意欲が変わってくると感じるので、予算の都合もあるかと思うが、ある程度校舎を整えてほしいという思いがある。

○委員長　明徳小の学区が大きな線路で分けられているようだが、線路の東と西で分断することもあり得るのか。

○事務局　明徳小だけでなく、中通小学校も線路で分断されているので、地域協議の中で隣接する地域との調整も必要ではないかという意見もあった。

○事務局　そういった点も地域協議の中で話し合っていくが、おそらく第２段階で整理されるものと考えている。

○委　員　既存の校舎を使うということであったが、教室の数が足りるのか危惧している。児童生徒数だけでなく、統合後の学級数が把握できる資料を準備しておくべきである。

○委員長　現在、上北手地区の児童が桜小に行っている実態があるが、仮に統合した場合はどうなるのか。

○事務局　指定校変更制度は、そのままと考えている。

○委員長　学校を分割することはあるのか。

○事務局　もし協議会の総意ということであればあり得る。

○委員長　城南中学校は、中央地域に位置しているのか。

○事務局　そのとおりである。

○委　員　学校同士の統合というよりは、エリア内の統合なのか。

○事務局　最終的な形はわからないが、学校の再編であり、必要に応じて学区の見直しを図っていくものである。

○委　員　地図上の位置で考えるだけでなく、文化というか地域の意識の違い、感情も大切にすべきであると思う。

○委　員　統合後の校名は、既存の校名にはならないのではないか。

○事務局　校名についても、組み合わせを決めた後の次の段階で検討していく。既存の校名に縛られず、地域の皆さんで考えていただき、柔軟に対応していく。

○事務局　　学校を分割する案よりも学校同士の組み合わせを考え、その中で学区の整理をしていくという柔軟性が必要となる。線路で分断されているからといって地図の上で学校を分断すると、地域の思いを踏みにじることになる。ただし、一つの小学校が複数の中学校に進学している場合に、地域からの要望があれば対応していく。

第２段階、第３段階に進んでいくと、校舎、校名、校歌などの検討が始まり、予算も付随していく。それらを最初から考えてしまうと、協議が進まなくなるので、段階を踏んで順に進めていく。

○委　員　　学校に付随する地域の団体があるので、それらの団体がまとまらなくなることがないようにという意味でも、整理をしながら順に進めていくべきだと思う。

(3) その他

事務局から、第２回推進委員会の日程は後日お知らせすることを伝えた。

７　閉　　会

以　上